



第434号 平成26年9月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館 2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 林 鐘 声

「京都市立銅駝美術工芸高等学校」の校名の由来について

校長 中村 則和

平素より学校医会の皆様方にお世話になっており感謝申し上げます。

また、この度は林会長様より本校の校名の由来を紹介させていただく機会を賜り、まことにありがとうございます。

さて、本校は河原町夷川を東に入って二筋目の土手町通りと夷川通りに面しています。グラウンドの東側に鴨川が流れており、近くには有名な頼山陽の山紫水明所もある風光明媚な立地条件に恵まれた学校です。

また、グラウンドと鴨川の間を「みそそぎ川」が流れていますが、この川は本校の南200メートルの辺りで取水され「高瀬川」になります。

「みそそぎ川」についてはご存じない方も多かもしれませんが、京都の夏の風物詩である鴨川の床

が立っているのがこの「みそそぎ川」です。テレビ等で四条大橋が映った際にご覧いただきたいと存じます。

さて、本校の校名「京都市立銅駝美術工芸高等学校」は、2つのコンセプトの違う学校の名「銅駝」と「美術工芸」が合わさって出来たものです。

まず「銅駝」ですが、これは戦前の「銅駝尋常小学校」、戦後の「銅駝中学校」の流れを継ぐものです。明治2年に開校した「上京第三十一番組小学校」を明治8年に当時の知事榎村正直が「銅駝校」に改名したと伝えられています。

「銅駝」の由来ですが、漢の洛陽からシルクロードへ出発する地点に銅製の駱駝の像があり、平安京が中国に倣って条坊制を採ったので、二条より北、中御門辺り迄の左右両京の坊名を「銅駝坊」と称したことに由来すると言われています。(東の「銅駝坊」の名残は、本校の校名としてしか残っていませんが、西の「銅駝坊」の名残は、「銅駝町」という町名で残っているそうです。)

さて、「美術工芸」の方ですが、これは、明治13年(1880年)に日本で最初に出来た「京都府画学校」が発点になります。

これは京都御苑内のお里御殿を校舎としたものですが、台風により使用不可能となり、その後校舎が転々とする事になりました。(ちなみに、お里御殿は後に泉涌寺に移築され、現在も一般公開されています。)

その間、明治22年に京都市の所管となり「京都市画学校」と改称、さらに明治27年に「京都市美術工芸学校」と改称していきます。また、明治42年には、この「美術工芸学校」の上級学校として「絵画専門学校」が誕生します。



その後、両校は「美工・絵専」という名称で親しまれる兄弟校（校地、校長、教授陣が同じ）として発展しました。

しかし、戦後の学制改革により、「絵画専門学校」は現在の「京都市立芸術大学」の美術学部となり、「美術工芸学校」は「京都市立日吉ヶ丘高等学校」の美術課程の形で「日吉ヶ丘高等学校」に組み込まれました。（この時に、教授陣と創立以来収蔵してきていたお宝ともいべき収蔵品が両校に分かれてしまいました。）

この「日吉ヶ丘高等学校」の美術関係者の方々が

中心となり、戦前のような美術工芸の単独校を設立して欲しいという運動を30年間続けられました。

その願いが叶って、「京都府画学校」設立100周年にあたる昭和55年（1980年）に現在地に移転し、独立開校したのが本校です。

日本の美術学校の中で、最も長い歴史と伝統を誇る本校ですが、このことに驕ることなく、今後も先人たちの本校への熱い思いを継承しながら発展して行く所存です。どうか今後も皆様方の暖かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、本校の校名紹介の筆を置かせていただきます。

第65回指定都市学校保健協議会記念講演

会長 林 鐘 声

演題「本気になれば何かが変わる

—指導者として・選手として—

講師 日本体育大学教授・神奈川県教育委員会教育委員 具志堅幸司

具体的に志を堅くもてば幸せを司るという名をつけてもらった両親に感謝すると始まった講演です。本気とは「具志堅」であるということのようでした。

体操個人で金メダルを獲ったのは1984年ロサンゼルスオリンピック。呪文を唱えて競技に臨む、彼の姿を今でも憶えている方も多いことでしょう。鞍馬で失敗したため前半戦を5位で折り返したあと、決勝の会場へ向かうバスの中で不思議な体験をしています。気がつけばひとりで涙がこみ上げていたということです。各種目の演技を完璧にこなし、優勝するところまでまざまざとイメージが連続して湧き上がったあとのことでした。ゾーンに入っていたのでしょうか。ウィーリーバンクスや北島康介の例を挙げましたが、真に一流といわれる選手には、この様な体験は皆あることなのでしょう。

選手は競技力を高めて結果を出すためには、こんなところでいいかというあいまいさを残さず一点の曇りもない明確なイメージ、明確な目的を持つことが出発点です。コーチの仕事は選手にまず目的地をはっきりと意識させることが第1で、それからは、渋滞を避け、迷路に入り込まず、素早く目的地へ運ぶタクシー運転手の仕事と同じとするのが彼の自論でした。実績から見ると、乗客の要望に応えられる腕利きの運転手だったようでした。

彼は大学3回生、4回生に1度ずつ、競技人生を

諦めざるを得ないような大きな足の怪我をしています。恩師の支え、交流があって、リハビリ中に上半身を鍛え上げ、禍い転じて福となして、それまで苦手であった吊り輪が得意種目となり、金メダル獲得の原動力となりました。競技では、やろうとすることをしっかり思い浮べて、それをやり切ることに専念すべきと強調していたのは、失敗するかも知れないというセルフダウトに陥らない秘訣でもあるのでしょうか。調子が狂うのは更に良くなる前兆という言葉も含めて、私は、少しかじっているゴルフのことを思い返しては、力づけられることしきりでした。

選手には怪我はつきものです。環境、指導者、選手の3者で危険が現れない様にうまく取り囲んでいると怪我はないが、選手が未熟であったり疲れている時は、そのすき間から危険が現れ易く、他の2者によるカバーがないと怪我となります。アコーディオンのように伸縮する3者の関係に怪我の原因を求めていましたが、指導者の責任は重く、選手への細心の目配りや練習、競技環境の整備を日々欠かしてはならないということだったと思います。

最後は、3人のレンガ職人の話で締めくくりました。レンガを積む仕事を、与えられたこととしてしているだけなのか、壁をつくるためにと考えてしているのか、それとも勉強し笑顔に満ちた子供たちのいる学校をつくるために壁をつくらうとしてしているのかを問うものでした。ロボットでも出来る仕事とせず、パッションを持って「具志堅」で仕事しましょうというメッセージが、終始強く響く講演会になっていました。

第14回京都「こどもの心とからだ」教育講演会

前会長 奥村正治

去る7月26日(土)午後3時より、こどもみらい館(学校医会事務所の会館)4階の研修室で開催されました。毎年、この会は、心(特に低身長)の話題の2題が講演会の話題になります。

本年は、一題目は「SGA性低身長の早期発見・早期治療のために」と題して、上京保健センターの徳弘由美子先生にお話しいただきました。SGA(日本では出生時の身長と体重がともに10パーセント以下を下回る)の基本、SGA性低身長(①出生時の体重および身長がともに在胎週数相当の10パーセント未満で、かつ出生の体重または身長のどちらかが、在胎週数相当の-2SD未満である。②さらに、このうち歴年齢2歳までに-2SD以上にキャッチアップしなかった場合)の治療、今京都市の保健センターで行われている「3・3健診」でのフォローアップの話題などを教えて頂きました。

二題目は「子どもの自尊感情を育てるには——学校と家庭における工夫」と題して、山陽学園大学総合人間学部生活心理学科教授の近藤卓先生にお話しいただきました。色々とお話しいただいたが、自尊感情には、底辺に(I)基本的自尊感情・その上にふんわりと(II)社会的自尊感情が乗っかっている

状態が自尊感情であり、I IIの大きさにより、4つの自尊感情の形が考えられる。① Iが大きくIIが小さいパターンは=低く安定した自尊感情(のんびり屋、マイペースタイプ)。② IもIIも大きいパターンは=大きく安定した自尊感情(何があっても大丈夫、立ち直れるタイプ)。③ IもIIも小さいパターンは=低くて弱い自尊感情(さびしくて孤独、自信がなく不安タイプ)。④ Iが小さくIIが風船のように肥大しているパターンは=肥大化して不安定な自尊感情(がんばり屋のいい子、不安を抱えているタイプ)。以前は③のタイプの子供さんに目が行き届き、十二分のフォローがなされて来た。しかし最近では④のタイプの子供さんの方が立ち直れにくく、気をつけてほしい。と言う結論のように思いました。

また、基本的自尊感情を増す方法の一つとして、学校・家庭の役割が大切であり、特別の課題を提供して基本的自尊感情が増強されるものでもない。と。

この教育講演会の共催だったファイザーさんが今回で共催を降りると言っておられ、次回から懸念されていたが、小児科医会の会長吉岡先生(西総合支援学校校医)のご尽力により来年も継続される事が決定され、安堵いたしました。

中学生ラグビーの試合に行ってきました

福西小学校校医 奥村正治

平成26年5月17日(土)に宝ヶ池球技場において「京都市中学校新人戦ラグビーフットボール競技大会」が開かれました。京都市学校医会スポーツ医事班より派遣と言う事で、ちょうど第三土曜日は当院休診の為、診療に影響が出ないので行ってきました。

晴天の五月晴れて、気持ちのいい日でした。試合は今までに何回かのトーナメント戦が行われ、この日は準決勝の日でした。第一試合は藤森中学校と洛南中学校、第二試合は伏見中学校と修学院中学校の試合でした。藤森中学校と伏見中学校が勝ち上がり、後日、決勝戦となりました。

当方の担当の医務の関係では、第一試合は何のト

ラブルも無く、平穩無事でした。第二試合は、左IV指の骨折から始まり、胸部打撲、頭部打撲の三例が有りました。左IV指の骨折は指が変形をしており、すぐに医療機関に搬送いたしました。二例目、三例目は、経過観察をいたしておりましたが、打撲による痛みは消失し、二例目・肋骨骨折の気配も無く、三例目・瞳孔光反射は良好、頭痛も無く、脳振盪の気配も無く、経過良好という事で、医療機関の受診は有りませんでした。それぞれ、痛みが復活するようであれば、医療機関の受診が必要との指示を出し、医務の仕事は終わりました。

第4回 常任理事会

平成26年9月6日

於 事務局

出席者 林会長, 竹内副会長, 杉本専務理事, 東道・
山内各常任理事, 佐野眼科学校医会副会長,
鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事, 長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 第1回 パワーアップ研修会 (山下 琢先生)
8/4 13:30~ 於: 京都アスニー
2. 色覚相談 8/5, 8/12, 8/19, 8/26, 9/2
3. 養護教育研究会 夏季研修会 8/19
4. 腎臓相談 8/26
5. その他

<協議事項>

1. 養護教育研究会との懇談会について 9/20
17:30~ 於: 二條ふじ田
2. 京都市小学校「大文字駅伝」大会支部予選会
出務医について
3. 平成26年度 ご勇退について
4. 新年会日程について
5. 京都市学校保健会 健康教育シンポジウム
シンポジストについて
6. 教職員の健康相談・超過勤務について
7. 食物アレルギー相談事業について
8. その他

<関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 9/9, 9/16, 9/30
2. 精神衛生研究会 9/11
3. 養護教育研究会との懇談会 9/20 17:30~
於: 二條ふじ田
4. 北・上京合同支部会 9/27
於: 京都ホテルオークラ
5. 第5回常任理事会 10/4
6. その他

